

天滝橋架け直し 学生たちが協力

「日本の滝」100選に選ばれている養父市大屋町役の「天滝」に至る登山道にある「天滝橋」を、市が新たに架け直す計画に、学生たちが協力している。舞鶴高専（京都府舞鶴市）の学生が橋を設計し、神戸大山岳部員らが建設資材の現地への搬入に汗を流している。大雪と豪雨でたびたび壊れ、仮復旧の状態が続いている橋が今年中に新しくなる見込みだ。

災害で被害 今年中に新しく

天滝橋は、落差98名の名瀑「天滝」への登山口から約800名先、標高差約130名を登った山中の「鼓ヶ滝」の前に架けられている。災害で何度も壊れ、現在は地域住民が仮設の橋をつくり、約700名先にある天滝への登山道を確保している。

県から市へ出向している石原純・建設課長が今年6月、橋の維持などを研究する舞鶴高専の建設システム工学科の玉田和也教授に天滝橋について相談した。すると、玉田教授は現地を確

認したうえで、豊岡市出身の学生、安藤翔さん(20)が卒業研究として新しい天滝橋の設計に取り組んでくれることになった。

安藤さんは、「三角形」を組み合わせた骨組み構造の「トラス橋」（全長10名、幅1名）を設計。今月初め、養父市を訪れ、市内の建設会社や地元住民らにも設計内容を説明した。市と舞鶴高専は「社会インフラ維持管理連携協力」に関する協定を結び、交流を図っていくことになった。

豊岡出身の高専生が設計



天滝橋の模型（部分）を持つ養父市職員。舞鶴高専の学生が作った。同市広谷

市は、安藤さんの設計に基づいて橋を架け直すことに決めたが、懸念されたのが建設資材の搬入方法だった。橋の鋼材は一つが重いもので約25kg。板材や砂な



天滝に至る途中にある「鼓ヶ滝」の前に架けられる新しい「天滝橋」のイメージ図＝養父市提供

神戸大山岳部が資材搬入

どの資材も合わせると計7～8トにもなる。

ヘリコプターで搬入すると、周囲の木を切らなければならず、国立公園でもある景観を損ねる恐れもある。そこで資材を人力で運ぶ方向で検討し、氷ノ山（養父市）に山の家「千本杉ヒュッテ」を持つ神戸大山岳部に石原課長が相談したところ、こちらも快諾。今月21日にまず8人の部員とOBらが作業。11月中旬までの計6日間で、部員とOB延べ約60人が資材を現地へ運ぶ作業をする。

天滝への登山口近くのレストハウス天滝周辺で11月3日に開催される「天滝もみじ祭り」で、市は安藤さんが設計、製作した新しい天滝橋の模型の展示を予定している。（甲斐俊作）